

2018年9月26日

東芝プラントシステム株式会社

(東証一部、証券コード：1983)

原子力発電所廃炉作業に向けた技術協力に関する基本合意について

当社は、廃炉作業が進められている国内商用原子力発電所に向けて、これまで欧米において原子炉解体を数多く手掛けてきたドイツの Siempelkamp NIS Ingenieurgesellschaft mbH (以下、NIS) と技術協力をを行うことに基本合意しました。

今回の技術協力に関する基本合意は、廃炉作業における原子炉圧力容器及び炉内構造物の解体技術を導入するために行うもので、当社がこれまで国内で培ってきた原子力発電プラントの建設・メンテナンス工事における施工技術と、NIS が保有する原子炉解体技術を融合させることにより、安全性の確保と併せ、解体作業の省力化・効率化及び作業期間の短縮を図ることが可能となります。

原子炉圧力容器や炉内構造物の解体は高線量領域下となり、高度な技術が求められるだけでなく、廃棄体の収納・搬出・保管にも厳格な管理が要求されます。また、被ばく低減や汚染拡大防止の観点からも他の設備の解体に比べて格段に厳しい配慮が必要になり、国の規制等を含めて多様な技術要求に対応しなければならないため、長期間に亘る廃炉工程の中であって、最も重要な作業と位置付けられています。

NIS は、彼らの約 25 年に亘る廃炉事業の中で、原子炉解体プロジェクトの計画や専用機器の開発・供給、さらには施工技術に至るまでの広範な技術力を有しており、ドイツや米国を中心に原子炉解体の施工実績を残してきました。同時に、顧客に寄り添い個々の事案を解決していく企業ポリシー“テイラーメイドなソリューションの提供”により、欧米顧客から高い信頼を築き上げています。

一方、当社は現在継続中の東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の廃炉作業において、東芝グループの一員として設計から最前線の現場対応まで、数多くの案件に携わっており、遠隔操作機器を活用した作業(現場調査、除染、解体撤去など)も手掛けています。従来のプラント施工技術はもとより、福島第一原子力発電所の廃炉作業で培ったこれらの先進技術や工法は、国内商用原子力発電所の原子炉解体にも活用できるものと考えています。

今回の技術協力により、今後、電力会社や東芝エネルギーシステムズ株式会社との連携を更に強化し、技術・工法の研究開発に取り組むとともに、高度な専門技術を保有する国内外の企業・団体等とも協力し、原子力事業の更なる信頼性向上に寄与すべく、事業活動を展開してまいります。

以 上

本件に関する問合せ先

東芝プラントシステム株式会社 業務部 広報担当
TEL : 045-500-7012
kouhou@toshiba-tpsc.co.jp